

## マタイの福音書 2章

イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、 (2:1)

これはヘロデ大王で、あのチビの怪物のことです。彼は身長が4フィート（約120センチ）ちょっとしかなく、すごく背の低い男として、おそらく巨大なエゴの問題を抱えていたことでしょう。

そのため、彼が行ったことは何でも著しく大きいものでした。彼は巨大な岩々を使って巨大な要塞を建てました。

私は、ヘロデが神殿の丘を築き上げて神殿を据えるために、擁壁としてエルサレムに建てた嘆きの壁沿いにある、一つの岩の隣に立ちました。

観光客が行くことのできない裏手で、私は47フィート（約14メートル）の長さで10フィート（約3メートル）の高さ、10フィート（約3メートル）の幅のある一つの岩の傍に立ちました。それは170トンの重さがあると推定されています。この小さなヘロデが、あの岩をそこに置かせたのでした。

彼は建築の天才でした。彼はヘロディウムを建て、マサダ要塞を建てました。

言うまでもありませんが、彼はエルサレムに大神殿を建設し、神殿の丘のあたりを築きました。彼はカイサリアを建てました。そしてこの小さき天才による驚異的な建築プロジェクトとしては、ベツレヘム近くの池や、エルサレムのための水道システムの建設がありました。

今日でも、皆さんはヘロデの建築プロジェクトの多くを見ることができますが、この小さな男にいかにも建築の才能があったのか、全く驚かされるものがあります。

彼はまた、恐ろしく残忍で、病的に疑い深い人でした。彼は、自分の息子たちや妻ミリアムが、彼に対する陰謀を企てていると考えて、彼らを皆殺してしまいました。

それから彼はミリアムのことが恋しくなり始めました。彼はミリアムを殺した後、彼女が恋しくなったので、ミリアムのために大きな記念碑を建てました。「ヘロデの子どもに生まれるより豚の子に生まれた方が安全だ」と言われていたものです。彼は息子たちが王位を奪おうとしていると、いつも疑っていたからです。

そのため、彼はしょっちゅう彼らを殺させ、その妄想症のために自分の息子たちのほとんどを抹消させていました。彼は精神的に非常に不安定な、小さな男だったから、これらの大きな要塞を建てて、そこに避難場所を求めたのでした。

そのうちに、彼は自らの残忍さと卑劣さのために、彼が死んでも誰も涙を流す者がいないだろうということに気づきました。そして、自分が死んだ時に誰も泣く者がいないという考えに耐えられなくて、彼は自分が死んだら幹部たち全員を処刑して殺すように命じました。自分が死んだ時に、人々に嘆いてもらいたかったからです。

彼は、自分のためには嘆いてもらえないことが分かっていたので、彼が死んだ時に嘆かれるように、自らの死とともに、それらの人気のあった幹部たちが全員殺されるように命じたのでした。

幸運にも、彼が死んだ時、彼らには「どうしてヘロデの命令に従う必要があるんだ。彼は死んだんだ」と気づくだけの分別があったので、他の幹部たちは処刑されず、そのためヘロデは嘆いてもらえないままでした。

ヘロデ王の時代に

**見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。(2:1-2)**

それがこの小さくて不安なヘロデにどんな影響を与えたか、想像がつかますか。この人たちは尋ねています。ユダヤ人の王は俺だ。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこ」かとは、どういう意味だ。

この人たちがユダヤ人の王の誕生について尋ねるために東方からやって来た時、彼は自分の地位を脅かされて、実に動揺しました。

彼らは言いました。

**私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」(2:2)**

ベツレヘムの星に関しては、非常に多くのことが書かれています。それは惑星が重なり合って見えたものだと言われ、天文学的に見てベツレヘムの星を構成したものは何だったのかということに関し、多くの異なる推測がなされてきました。

カリフォルニア州ロサンゼルスにあるグリフィス天文台では、12月に、しばしば月例講義として、ベツレヘムの星を取り扱います。彼らは、そこにあるプラネタリムを使って、天井の光を調整し、歴史上のどの期間における空でも再現することができます。

彼らはキリスト誕生の時まで何年もさかのぼって、星座や惑星の位置などを見せることができます。彼らはベツレヘムの星について非常に興味深い講義をしています。

しかし、厳密に何が起こって、天におけるこの特別なしるしを構成したのかは、多くの人たちが推測するところです。

けれども、現段階では、それがいくら妥当であっても、それは人間の推測であり、私たちには確かなことは分かりません。それに私は推測するよとの召しを神から受けていませんから、私たちは、それにはこだわらないことにします。

**私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」(2:2)**

彼らが東方にいてその星を見たのなら、明らかにそれは彼らを西に向かって導きました。ですから、それはおそらく何らかの特別で超自然的なしるしだったのですが、それについては少し後で指摘することになります。

それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。(2:3)

なぜなら、ヘロデが恐れ惑えば、誰もが恐れ惑うからです。

そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。〔尋ねたではありません。〕彼らは王に言った。〔この人たちは聖書に通じていました。〕「ユダヤのベツレヘムです。預言者〔預言者ミカ〕によってこう書かれているからです。『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」(2:4-6)

彼らはその預言を言い終えませんでした。でもミカ書を読んでもと、「その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」(ミカ 5:2)とあります。

そして彼は、キリストが王位について統治することを語っています。ベツレヘムはその出生地として特定されています。

そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。(2:7)

そこで彼らはヘロデに自分たちが最初にその星を見たのがいつだったかを告げ、旅を始めました。

そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」(2:8)

ヘロデは礼拝について、非常に歪んだ感覚を持っていました。

彼らは王〔これはヘロデ王です〕の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。(2:9)

とすると、彼らが東方で見たというこの星のことを何らかの自然現象によってしっかりと説明するのは難しくなります。それは彼らを西に向けて導きましたが、今度は彼らを東に引き戻しています。事実、ベツレヘムはエルサレムの南東にあるからです。

ご注目ください。それは「幼子のおられる所」の「上にとどまった」んです。それが飼い葉桶の上にとどまったのではないことにお気づきください。それは赤ん坊の上にとどまったのではなく、「幼子のおられる所」の上にとどまったのです。

クリスマスカードや、クリスマスの劇が私たちを混乱させるのはこのところです。らくだに乗った賢者たちを飼い葉おけまで来させて、羊飼いたちが見惚れる中を、飼い葉おけの赤ん坊の前に贈り物を差し出すという場面は、クリスマス劇において最高に輝かしいクライマックスとなるからです。

それはクリスマスカードやクリスマスの劇には典型的なものなのですが、賢者たちが来たのは遅かったのです。彼らが到着した時には、ヨセフとマリヤは飼い葉おけから出て、ベツレヘムにある家に移り住んでいました。

残念ですが、賢者たちは飼葉おけには来ませんでした。彼らはもっと後に、恐らく一年か、もしかしたら二年も後になって到着したのです。

賢者たちがやっと到着して幼子を見つけた時には、イエスはおそらく歩き回って、言葉も少し話していたでしょう。

そしてその家には行って〔飼葉おけではなく、家に入りました〕、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金〔王にふさわしく〕、乳香、没薬を贈り物としてささげた。(2:11)

没薬というのは埋葬のための香辛料でした。それが「幼子」に与えられたというのは、かなり意味のあることです。

それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。(2:12)

彼らは神から戒めを受けたので、敢えてエルサレムに戻ることはしませんでした。

彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。(2:13)

やはり、ヨセフは主およびその御霊と接しています。

主の使いが夢でヨセフに現われて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を探し出して殺そうとしています。」そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。(2:13-15)

マタイが、くり返して、キリストの人生のこれらの側面が、現実に預言の成就であることを示しているのに留意してください。

これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。(2:15-16)

ヘロデが「いつその星を見たのか」と言ったのを覚えていますか。そこで彼らは彼に初めてその星を見たのがいつだったかを告げ、そのために彼は二歳以下の子供たちを殺しました。それは彼らが二年ほど前にその星を初めて見ていたからです。これもやはり、賢者たちがやって来た時にキリストが飼葉おけの中の赤ん坊ではなかったことを示すものです。

そしてヘロデが子どもたちを皆殺すと、

**そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「ラマで声がする。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケルがその子らのために泣いている。(2:17-18)**

もちろん、ラケルが実際にベツレヘムの外れで亡くなり、彼女の墓がベツレヘムにあることは意味のあることです。彼女はベニヤミンを出産した時に亡くなりました。

彼女が悲しみのために彼の名前をベンオニと呼んだのを覚えてますね。故に、ベツレヘムで死んだラケルの預言です。ベツレヘム周辺の人々は、もちろん、彼女の埋葬の場所、そこにある彼女のお墓に敬意を払っています。

「ラケルがその子らのために泣いている。ラケルは慰められることを拒んだ。子らがもういないからだ。」彼らが殺されてしまったからです。

ヘロデが死ぬと〔彼はその後ほどなく死にました〕、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現われて、言った。「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地にはいった。しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。(2:19-22)

彼はもとの出身地へと戻って行きました。実際には、マリヤが御子キリストの母となることを最初にガブリエルから告げられた場所であるガリラヤに行きました。

**そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就するためであった。(2:23)**

始めから終わりまで全体を通して、マタイはキリストが預言の成就であることを示しています。マタイは預言マニアです。